

消防の広域化

組織力強化で消防サービスの向上を目指す

静岡県 駿東伊豆消防本部

1 駿東伊豆消防本部の概要

駿東伊豆消防本部は、沼津市、伊東市、伊豆市、伊豆の国市、東伊豆町、函南町、清水町の4市3町で構成し、静岡県の東部に位置しています。管轄人口は、約44万人、管轄総面積921.74km²を有していて、そのうち森林面積が6割強を占めています。

管轄区域は、首都100km圏に位置し、その北部地域は平坦な市街地が連続し、主要駅を中心とする市街地が形成され、比較的人口密度が高い都市的要素を有しています。さらに、東名、新東名高速道路や国道1号線が横断し、東京と名古屋を結ぶ中間点として人の往来が多い地域であります。

また、南部地域は、中山間地が多く、山地が海岸線まで迫る急峻な地形を形成している地域が多く市街地が点在化していますが、伊豆縦貫自動車道など交通基盤の整備が進み、交通アクセスが非常に良好になりました。

また、駿河湾や相模灘などの海岸を有するとともに、国立公園等の自然豊かな場所を数多く持ち、温泉郷としてもにぎわう地域が多いことから、国内外から多くの観光客が訪れる地域であります。

新たな組織として今年4月から消防業務を開始した当本部は、消防職員596人、1消防本部3方面本部体制で、8署4分署7出張所という組合消防としては、職員数で全国5番目の規模となる消防組織となり、地域住民の安全安心の確保に努めています。

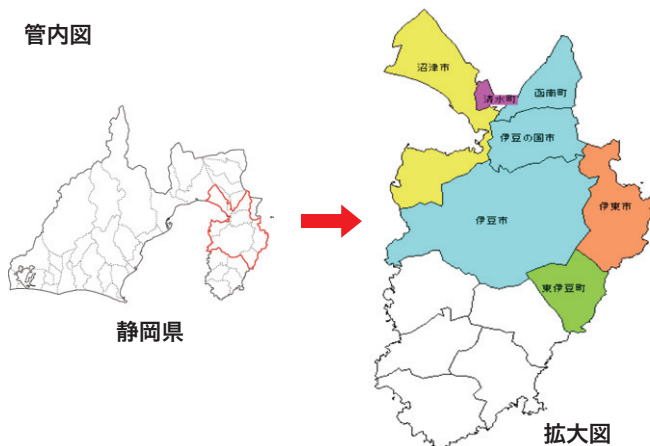


世界文化遺産「富士山反射炉」
(伊豆の国市)



2020オリンピック・パラリンピック東京大会
(自転車競技開催会場：伊豆ベロドローム)

管内図



静岡県

拡大図

2 広域化に至る経緯

平成18年6月の消防組織法の改正による「市町村の消防の広域化に関する基本指針」を受け、静岡県では、平成20年3月に「静岡県消防救急広域化推進計画」が策定されました。

この計画を基に平成22年7月から駿東・伊豆地域をひとつの区域として広域化の協議を進め、平成24年3月広域化に賛同した市町で任意協議会を設立し、広域化に向けて取り組むこととなりました。

その後、協議を重ね、平成25年11月、現在の駿東伊

豆消防組合を構成する市町の枠組により、法定協議会としての「駿東伊豆地区消防救急広域化協議会」に移行して、組織機構、災害出動体制、職員の身分や給与に関することなどの協議を行い、平成27年1月「駿東伊豆地区広域消防運営計画」を策定し、平成28年4月1日「駿東伊豆消防組合」が発足しました。



駿東伊豆地区消防広域化調印式

3 広域化の効果

(1) 部隊運用体制等の強化

初動の出動台数の充実及び広域化により従来の管轄区域の制約がなくなったことから、市町境界という行政区域を超えて、災害地点に最も近い署所から出動することで、現場到着時間の短縮等の効果が期待できるとともに、統一的な指揮の下、部隊運用体制も強化され、大規模災害、特殊災害等への対応も可能となりました。

(2) 現場体制等の充実

本部機能の統合により現場要員の増強はもとより、特に近年著しく高度化している予防、救急業務などについて、職員の専門化や専任的養成を行うことができるため、より一層質の高い消防サービスの提供が可能となりました。

(3) 投資の効率化による財政基盤の安定

財政規模の拡大による高機能な消防施設・設備などの計画的な整備が可能となったため、特殊車両等を計画的に、高機能な設備を一元的に整備可能となりました。

(4) 組織の活性化

広域化により、新たな交流が生まれ、旧消防本部で培ってきた消防業務の長所を分かち合うことで職員の士気の高揚が図られました。また、若い職員にとって目標となる先輩や同僚が増えたことで、更に組織として活性化しました。



駿東伊豆消防組合発足式で決意を述べる平井消防長

4 おわりに

組合発足からまだ間もなく、また、組合議会や出納、契約事務、人事給与に関することなど、業務経験や知識が皆無に近い消防職員にとって、非常に苦労を強いられましたが、このことを日々乗り越えてきたことで新たな組織の中で強固な結束力が生まれました。今後も、課題が数多くあることは予想されますが、質の高い広域消防組合を目指して業務能力の向上に努めてまいります。

また、消防広域化によって、拡大した組織のスケールメリットを最大限に活用し、効果的な消防行政や災害活動を展開することで、地域住民等の安心・安全を守る砦として、その負託にこたえるべく職員一丸となって職務に取り組んでまいります。



駿東伊豆消防本部庁舎

注：本文中の数値等は、「駿東伊豆地区広域消防運営計画」から引用しています。